

アーバン分野

アーバン分野は、社会・産業システムセグメントのビルシステム(エレベーターやエスカレーター)と鉄道システムに加え、オートモティブシステム(自動車機器や車載情報システム)、生活・エコシステム(生活家電や空調機器)の主に4つの事業から成ります。この分野では、日々の暮らしに欠かすことのできない製品・サービスの提供を通じて、世界中の人々のQuality of Life向上をめざしています。

今後の成長ドライバー

人々の生活を支えるビルサービス

日立は、24時間365日、エレベーターをはじめとするビル設備の遠隔監視を行っています。集めた稼働データを活用し、保守要員に頼らずに故障の予兆を捉えたり、部品交換などのメンテナンス計画を策定するなど、IoTを活用した高度なサービスを提供しています。今後は、長年にわたって培ってきた高品質なメンテナンスサービスのグローバル展開を加速するとともに、ビル設備の稼働状況に加えて、建物内の人の流れなど、さまざまなデータをLumadaに集約し活用することで、サービスロボットを用いた施設内の案内業務支援や、来場者分析による施設価値向上など、きめ細かなビルサービスに取り組んでいきます。



ビル設備の遠隔監視を行う管制センター

高品質・高信頼の鉄道システムソリューション

日立は、鉄道車両や運行管理システムの提供、さらには、プロジェクト管理までを行う総合ソリューションプロバイダーとして、高品質・高信頼の鉄道システムソリューションをグローバルに展開しています。現在、英国都市間高速鉄道計画向け車両において、IoTを活用した高度なメンテナンスサービスに取り組むとともに、コペンハーゲンメトロでは、駅構内の混雑度合いに応じて列車の運行本数を自動で最適化する「ダイナミックヘッドウェイソリューション」の実証実験を行っています。今後も、Lumadaを活用し、お客様に新たな付加価値を提供する鉄道システムソリューションを展開していきます。

副社長メッセージ

市場に対する課題認識

私が担当するアーバン分野では、エレベーターや鉄道、自動車、家電など、われわれが日々生活する中で身近にある製品にかかわる事業をグローバルに展開しています。生活者の目から見て、まさに日立の「顔」となる事業領域です。

現在、アジアを中心として世界中で都市化が進行しており、アーバン分野の市場は成長が続くとみています。

一方、都市化の進行に伴い、高齢化やエネルギー供給問題、災害・犯罪からの安全確保など、私たちが積極的に取り組むべき課題も顕在化しています。

アーバン分野の代表的な4つの製品群であるエレベーターやエスカレーター、鉄道システム、自動車機器、生活家電には「CASE*」という共通のトレンドがあります。まず、製品の所有から利用、シェアリングという大きな流れがあります。

また、自動車だけではなく、多くの製品において自動運転・自律走行の流れは加速していますし、いかに省エネかつ低炭素で製品を動かすかという電動化も大変重要になっています。さらに、これらの製品がデジタル技術でつながることで、お客様の課題を解決する新しいソリューションも生まれ始めています。私たちはこのトレンドにしっかりと向き合いながら、お客様との協創によって、都市生活におけるさまざまな課題解決に取り組んでいきます。

*CASE: Connected (接続)、Autonomous (自律)、Shared (共有)、Electric (電動化)の頭文字をとった造語。

めざす姿

社会イノベーション事業でお客様の課題を解決するには、AIやIoTといったデジタル技術がカギになるのはいうまでもありません。同時に、コスト競争力をつけてグローバルに事業を拡大させるには、設計や保守などの業務もデジタル技術を活用して効率化する必要があります。したがって、デジタル技術こそがアーバン分野における最も重要な成長ドライバーになると考えています。お客様が困っている事象をリアルタイムにモニタリングして適切なソリューションを提供するには、常にデジタル技術でつながることが必要です。また、モニタリングしたデータを蓄積、分析することで、製品・システムのどこに課題があり、どのように改善すべきかを知ることができます。例えば、エレベーターをはじめとするビル設備では、24時間365日の遠隔監視を行って稼働データを収集しています。集めたデータの分析結果を、メンテナンスはもちろん、ビルの電力消費の最適化などお客様の要望に合わせたサービスへと展開しています。

また、日立はプロダクトの設計・製造やシステムの運用・制御だけではなく、ITシステムの構築も行っていますので、ワンストップでお客様の課題を解決することが可能です。例えば、鉄道では、車両の製造から運行管理・信号システムの構築、保守サービス、座席予約システムの構築まで、統合されたシステムを日立のみで提供することができます。これはお客様にとって、複数のサプライヤーをまとめる複雑なシステム構築プロセスを、単純化して効率化することが可能となるため、大きなメリットになります。このようにOT・IT・プロダクトを兼ね備え、お客様とデジタル技術でつながることで、今までになかったソリューションを協創できることが、「IoT時代のイノベーションパートナー」として日立が提供できる新しい価値です。



執行役員社長
小島 啓二

今後のミッションや果たすべき役割

私はアーバン分野を日立創業の精神の一つである開拓者精神にあふれ、新技術に果敢に挑戦するテクノロジーリーダーとしてグローバルに認知される、そのような事業体にしたいと考えています。海外売上収益比率が高く、事業のリーダーもグローバル人材が多いアーバン分野は、日立のグローバル化を先導する存在であると自負しています。私のミッションは、Lumadaを中心にデジタル技術を活用し、各製品群を革新して競争力を強化するとともに、都市化で拡大する世界市場をさらに開拓していくことです。また、アーバン分野における投資の全体最適を図り、日立全体のシナジーを創出するためのタイムリーな投資を行うことも、重要なミッションの一つです。

社会価値の創出に向けて

日立は創業以来、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」ことを企業理念としており、財務目標のみならず、社会貢献も一貫して追求する企業です。アーバン分野としては、デジタル技術を切り口に、次世代の都市化のビジョンを考え、「住み続けられるまちづくりを」というSDGsの目標の達成に貢献していきます。

注力するSDGs

